

【仲間と学ぶ宿泊体験推進校】

豊かなかかわり合いを通して、伝え合う力を伸ばす児童の育成
美祢市立城原小学校

— 学 校 の 概 要 —

① 学校規模

- 学級数：5学級
- 児童数：27人
- 教職員数：9人
- 活動の対象学年：全学年・27人

② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校は美祢市の南に位置し、周囲を山に囲まれ、校区内を厚狭川が流れるという自然豊かな地域にある。また、明治5年(1872年)に創立され、130年以上もの歴史が刻まれた美祢市でも最も歴史のある学校の一つである。校区の人々は母校の歴史と伝統に誇りをもち、愛校心とともに教育に対する関心も高い。
- 自然豊かな環境にありながら意外に外で自然とふれあって遊ぶ体験は少ない。集団遊びも限られている。
- 保護者や地域の方々は、学校教育に協力的で運動会や城原わくわく祭り、PTA主催の共育学級を一体となっていて行っている。また、教科や総合的な学習、城原学んでみ～ねクラブ(クラブ活動)、地域子ども教室や放課後こども教室でも、地域人材として活躍して下さり、子どもたちに指導していただいている。

③連絡先

- 〒759-2213
美祢市大嶺町西分城の下1474
- 電 話：0837-52-0405
- F A X：0837-54-1454
- ホームページ：<http://homepage2.nifty.com/jyougen-e/>
- 電子メール：jyougen-e@nifty.com

— 体 験 活 動 の 概 要 —

① 活動のねらい

- 山間部の少人数の学校であるので、他地域の人や自然と積極的にふれあい、学校ではできない豊かな体験を深める。
- 海や湖、山の自然にかかわる体験活動や人との出会い、ものとのふれあいを実施し、見聞を広める。
- 全校児童が宿泊を伴った共同生活をする中で、温かい人間関係を築いたり、集団としての自覚を深めたりしようとする自主的・実践的な態度を育てる。
- 体験活動で学んだ知識や情報、そこで感じた思いや願いを、様々な方法で、生き生きと表現できる児童を育てる。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

○ 「海のわくわく教室」

(1～4年 1日 6時間 生活または総合的な学習の時間 2時間、特別活動 4時間)

(5・6年 1泊2日 10時間 家庭 2時間、体育 1時間、総合的な学習の時間 2時間、特別活動 5時間)

○ 「豊田湖のわくわく教室」

1泊2日 12時間

(1～3年 生活または総合的な学習の時間 4時間、体育 2時間、特別活動 6時間)

(4年 総合的な学習の時間 2時間、体育 4時間、特別活動 6時間)

(5・6年 家庭 2時間、体育 2時間、総合的な学習の時間 2時間、特別活動 6時間)

○ 「十種ヶ峰のわくわく教室」

2泊3日 18時間

(1・2年 生活 2時間、体育 5時間、道徳 3時間、特別活動 8時間)(3～6年 社会 2時間、体育 5時間、道徳 3時間、特別活動 8時間)

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

- ・ 学校や宿泊施設に宿泊し、日頃の学校生活では経験できない自然・人・ものなどとふれあう体験活動を行うことを通して、豊かな人間性や社会性を育む。
- ・ 異学年との共同生活を通して、温かい人間関係を築いたり、集団としての自覚を深めたりしようとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ・ 体験活動で学んだ知識や情報、そこで感じた思いや願いを、言葉や絵画、歌等様々な方法で、生き生きと表現しようとする児童を育てる。

○ 全体の指導計画

<p>「海のわくわく教室」 1～6年 自然に関わる体験活動 平成19年7月21日（土）1～4年 1日 6時間 下関市豊北町肥中海水浴場、下関市立神田小学校周辺 5・6年は学校に宿泊し、7月22日（日）まで 1泊2日 10時間</p>	
全 校	海水浴、すいかわり、宝（さざえ）さがし（特別活動 4時間）
1・2年	磯の生き物探し、砂山作り（生活 2時間）
3・4年	磯の生き物探し（総合的な学習の時間 2時間）
5・6年	地層の観察・スケッチ、貝の化石の観察・採集、磯遊び テント設営、洗濯、きもだめし、花火、スポーツ・水泳 (家庭2時間、体育1時間、総合的な学習の時間2時間、特別活動1時間)
<p>「豊田湖のわくわく教室」 1～6年 自然に関わる体験活動、職場・職業・就業に関わる体験活動 平成19年9月13日（木）～9月14日（金） 豊田湖畔公園 ケビンに宿泊 1泊2日 12時間</p>	
全 校	夕食（バーベキュー）作り、きもだめし、朝食作り、ウォークラリー (特別活動 6時間)
1・2年	冒険の城・せせらぎ川での遊び、豊田ホテルの里ミュージアム見学、梨狩り 生き物探し（生活4時間、体育2時間）
3年	冒険の城・せせらぎ川での遊び、豊田ホテルの里ミュージアム見学、梨狩り 生き物探し（総合的な学習の時間4時間、体育2時間）
4年	冒険の城・せせらぎ川での遊び、カヌー体験・スケッチ、そば打ち体験 (体育4時間、総合的な学習の時間2時間)
5・6年	買い物、カヌー体験・スケッチ、そば打ち体験 (家庭2時間、体育2時間、総合的な学習の時間2時間)
<p>「十種ヶ峰のわくわく教室」 1～6年 自然に関わる体験活動、職場・職業・就業に関わる体験活動、交流に関わる 体験活動 平成19年10月17日（水）～10月19日（金） 十種ヶ峰青少年野外活動センター 2泊3日 18時間</p>	
全 校	アイスブレーキング、ネイチャーゲーム、なかよし班対抗ゲーム、森のチャ レンジコース、十種ヶ峰早朝登山、りんご狩り (生活または社会2時間、体育5時間、道徳3時間、特別活動8時間)

2 活動の実際

○ 事前指導

全校で海の様子ビデオを見ながら、活動の概要を知ったり、めあてやなかよし班の役割分担を決めたりした。豊田湖畔公園については、職員が事前研修に行き、その際に撮影した施設やカヌー体験等の写真をプロジェクターで投影し、児童にこんな活動ができると提案した。児童は活動例の中からしてみたい活動を選び、計画を立てた。食事作りが活動の中心であったので、5・6年生は、家庭科で、夕食と朝食の献立作りや買い物の計画を立てた。十種ヶ峰野外活動センターについても、施設の様子を紹介した。全校のめあてを代表委員会で話し合ったり、なかよし班で役割分担を話し合ったりした。なかよし班対抗ゲームについては、高学年児童が中心となってゲームの内容を決め、各班で準備を行った。しおりには、場所や施設・活動内容に関する多くの情報を含め、児童が事前に繰り返し読み、書き込み、使えるものとした。

○ 活動の展開

海水浴



化石採集



カヌー体験



Jタワー

○ 事後指導

体験活動でお世話になった方々や指導して下さった方々にお礼の手紙を書いた。「わくわく教室発表会」では、心に残ったことを3文に表し、全校で発表し合った。11月の「城原わくわく祭り」の学習発表会の部では、1・2年生は自分の見つけた生き物について発表し、3・4年生は3文を発表した。5・6年生は自分たちで台本を書き、森のチャレンジコースの島渡りとJタワーを再現して見せ、感動を伝えた。また、図画工作でも絵画や版画のテーマとしてとりあげ、すばらしい作品ができた。

3 体験活動の実施体制

○ 学校支援委員会

P T A会長・副会長、学校評議員、地域の指導者等8名の方からなる学校支援委員会で体験活動の計画について協議をしていただき、本校児童に今必要な具体的な内容について、助言をしていただいた。実施後は児童の変容について気づきや意見をいただき、成果を共に喜んでいただくことができた。海のわくわく教室では、ボランティアとして保護者6名が参加してくださったおかげで、安全に、発達段階に応じた活動をすることができた。学習の成果の発表会「城原わくわく祭り」へも多くの方々が参加してくださった。

○ 配慮事項等

児童の安全確保やより効果的な活動のために、早めに計画を立て、事前調査や事前研修を行った。利用施設、関係機関、保護者、指導者などとの連絡・調整を繰り返し行った。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

一つ一つの活動の終わりにふり返り、話し合うだけでなく、一日の活動をふり返って、自分の学んだことをしおりに書く時間を確保した。体験活動の事前・事後で児童がどのように変わったのか、児童自身の評価、職員の観察による評価を試み始めた。また、わくわく教室についてのアンケートを実施した。学校評価でも、体験活動についての項目を設けたが、保護者や地域の方々から「わくわく教室での様々な体験は子どもにとってよい経験になっている」と高い評価をうけている。

5 活動の成果と課題

○ 成果

豊かなかかわり合いの中で体験したことは、感動をもってとらえられており、児童は言葉で作文や短歌・俳句で、絵画・工作でなど様々な方法で、自分なりに表現をし、自分の思いを伝えることができるようになった。体験活動の1年目、昨年は、児童に様々な体験をさせたいという指導者側の思いが強く表れた活動内容であった。自然と向き合い、自然に親しむことで、自然への愛着や畏敬の心を培うことができた。2年目の今年は、1年目にできなかったことに的を絞った活動内容とし、磯遊び、カヌー、梨狩り、りんご狩り、十種ヶ峰早朝登山などそれぞれの場所を生かした活動をすることができた。また、人間関係づくりについてしっかりと時間をとり、全校で課題を達成していくことを通して、集団としての自覚や自主的な態度も育っていった。なかよし班での活動や多くの指導者との活動の中で、人とかかわり、その温かさや優しさに気づき、自分自身も見つめ直すことができた。全校での宿泊体験は、一人ひとりのよさや可能性を再発見することができ、小規模校で固定しがちな人間関係をよりよい方向へ向けていくにも有効ではないかと思われる。

○ 課題

自然・人・ものなどと直接ふれあい、自分の五感を通して学んだことは、大きな感動を呼び、忘れがたく、その後の学習や生活に生きていく。保護者や指導者の協力を得て、今後も全校での宿泊体験学習を継続していきたいと思う。年間だけでなく、小学校の6年間を見通して、いつ、どこで、どのような活動を、どのように積み上げていくかを考え、年次計画を立てていきたい。

